

ギャラリー 仲摩通信

二〇二〇年九、十月合併号

朝晩の涼しさに秋の訪れを感じる頃になりました。芸術の秋、スポーツ、食欲の秋をいかがお過ごしでしょうか。



二〇〇三年の『西川慎個展』で作品に添え花をして頂いた草月流本部講師、

石倉菘清先生から前号の「コロナ禍のオーケストラ活動」記事を興味深く読まれ、東京交響楽団への労いのお言葉と通信発行への励ましのお便りを頂きました。コロナ禍でいけばな界も難しい状況にあることが書き添えられていました。

同じ頃、DEN+から「上野雄次花いけ教室 花生けBaer」の案内と石川県能登島ガラス美術館から「生けるガラスー中川幸夫の花器」展のお知らせが届きました。偶然にも同時期に開催されているそれぞれ違う視点で捉えた「いけばな」と深い関係があるガラスの花器を観る機会に恵まれました。

富山市ガラス美術館、能登島ガラス美術館にゴートゥーキャンペーンを利用して行ってきました。本誌でそのご紹介と関連ニュースをお届け致します。(仲摩)

■DEN+ワークショップを見学

「上野雄次 花いけ教室 花生けBaer」が九月四日から六日にかけて恵比寿のDEN+にて開催されました。

「花道家で活躍の上野雄次氏を講師に招いて開催する自由な花いけ教室です。DEN+主催 奥野美果(ガラス作家)のガラス作品

も花器として使うことができません。」と案内に書かれた通り、当日は、

参加者の自己紹介に始まり、上野氏の自己紹介の後、光、花、重力など自然界の法則、上野氏の人生哲学が語られ、想像を超えた講義に驚きと感動の連続でした。

生徒は用意された草花と花器から好きなものを選んで自由に花をいけ、幾つか用意された空間の好きな所に飾ります。個々にいけ終えた時点で上野氏が講評アドバイスをされました。

生徒に場所、花、花器を選んだ順番を尋ねた上で上野氏



上野雄次氏、奥野美果花器



生徒に場所、花、花器を選んだ順番を尋ねた上で上野氏

がアドバイスを、実技指導をされました。花いけの奥深さを再認識したワークショップ見学でした。(仲摩)

※DEN+(デンタス)は、ガラス造形作家の奥野美果さんのガラスアトリエとオーブンスペースが併設されています。オーブンスペースでは、ワークショップ、展覧会、演芸など様々な企画を開催しています。www.micaglass.com

■ガラスアート北陸の旅

九月十五日から十六日にかけてガラスアート三昧の旅に出ました。

欲張った一泊二日の軽井沢の作家訪問、富山、能登島のガラス美術館巡りは車が便利です。

十五日明け方に発ち、朝一番で軽井沢のガラス作家、増田洋美さんのお宅にお邪魔しました。(早朝から押しかけて失礼しました。)

増田さんは、一貫してPLAY THE GLASSと題したインスタレーションの活動をされています。右の写真の作品は、吹きガラスの球体をひしゃげた形に変形し



cantabile(shall we dance?)

おぶせミュージアムにて

ガラスの柔らかさを表現した多数の個体で構成しています。

慌ただしい訪問をお許し頂き、早々にいとまして次の目的地、富山に向けて出発しました。カーナビを頼りにして以来、一段と方向音痴に磨きがかかりました。方向さえわからずナビの指示で走ることをおよそ四時間で富山市内着。

富山城址公園内にある富山市佐藤記念美術館へ。学芸員の中川靖子さんのご案内で茶室、書院座敷、茶道具、日本画などのコレクションを鑑賞。同館では、時折、富山のガラス作家、佐野曜子さんの菓子器が展示される事があるそうです。

次なる目的地、富山市ガラス美術館へは車でほんの数分、いよいよイヴァナ・シユラムコヴァ個展が目前です。

午後二時頃に富山市ガラス美術館着。中島春香学芸員のご案内で三階の展示室へ。まさに、そこはイヴァナワールド。絵画、ガラスのマスク、大型彫刻、小品、吹きガラス作品がブロック毎に展示されています。

チェコのアトリエで見た彫刻を思い出しながら、しっかりと堪能しました。

同時開催の「ミクロコスモスー新たな交流の試み」展会場へ。現在活躍中の若

作家七人（伊藤真知子、猪野屋牧子、勝川夏樹、小曾川瑠奈、言上真舟、谷口嘉、渡辺知恵美、敬称略）のそれぞれ個性が光る作品を鑑賞しました。新たな作家、作品に出会えた企画に感謝。

●イヴァナさんからのメッセージ



私の彫刻は穏やかで凛としていて、威風堂々とした雰囲気の商品です。それは内向的で華々しくは無く、

美しさを狙ったものではありません。挑発的だったり不快感を唆ることはありませんが、そこには何か不穏なものがあり、思考を促すものです。それらは強い個性を持っています。この感覚を言葉にするのは難しいし、それは不可能なのかもしれません。それはそれで良いと思っています。私は彫刻を構造的に分析することはできません、言葉ではそのメッセージを大凡の事しか伝えることが出来ません。私たちは芸術を魂のセンサーを通して主観的に知覚し、経験することしか出来ませんから。

私はしばしば幾何学的なシンプルさの中に物事を細分化します。ある意味それはガラスを用いた仕事や、ガラスの

製造方法、技術的な要求を通して、そうするように導かれているからです。

私はガラスの光学的特性を利用しない傾向があり、ガラスの気を散らす効果を避けようとしています。私がガラスを用いるのは、主にその色彩、表面の多様性、そして彫刻的な塊を通した光の透過性のためです。

私の作品は、先住民やエジプトや古代の芸術から発想を得ています。それらの文明の内面的な特質に興味を持ち、それを彫刻に封じ込めようと努力しています。

「イヴァナ・シュラムコヴァ ここにあるもの」 展会場風景



そしてガラスの表面を加工しながら、その発想を保持する努力をしています。それは上手く行かない事もあれば行く事もあります。私の彫刻の中には、長い時間を費やして制作しているものもあり、それぞれの作品がどの様に完成させてもらいたいか見極めるのに何ヶ月も、あるいは何年もかかる事があります。

2020/9/28

(訳 黒木利佳)

ミュージアムショップで待望のイヴァナ展、リベンスキー展の図録を購入。盛沢山の一日を終え、美術館近くの天然温泉お宿「野々」に着くやバタンキュー。

翌朝、朝湯に浸かり、海鮮丼を始め、種類豊富なバイキングの朝食をしっかりと食べて元気回復、イザ、能登島へ！

富山市ガラス美術館学芸専門官の畠山耕造さんがご一緒くださり、石川県能登島ガラス美術館目指して出発。

幸い天気恵まれ、美しい景色を見ながらのドライブは、畠山さんと積年のおしゃべりをしていくうちに、あつという間に石川県能登島ガラス美術館に着きました。



中川幸夫の花器
会期：開催中～12/13迄

さっそく、館内に入り、展覧会が開催されている展示室に向かいました。

中川幸夫氏が自身のいけばなのために制作したガラス器を中心に写真とあわせて中川幸夫氏の表現の世界を紹介。作家についての知識不足だった私は、「いけばな（一般的な）」が無い、案内チラシの作品はどこ？と捜してしまいましたが、同行の博識な畠山さんの作品

解説のおかげで、命がけて花と対峙した前衛芸術家、中川幸夫氏の壮絶な作家人生を垣間見ることが出来ました。

<https://www.nanao-af.jp/glass/>

畠山さんと庭の屋外彫刻を観、帰りの車中もたくさんおしゃべりして富山へ。

更なる寄り道で帰途に就いたのは翌朝の楽しい北陸ガラスアートの旅でした。

■富山ガラス大賞展 2021 作品募集

第二回国際公募展「富山ガラス大賞展 2021」が 2021/7/10（土）～10/3（日）に開催されます。ただ今、応募受付中です。奮ってご応募ください。詳細は <https://www.toyama-glass.jp/>

【編集後記】

ガラスアートの旅は、西伊豆へと続きます。次号で、黄金崎クリスタルパーク・ガラスミュージアムで開催中の展覧会をご紹介致します。（仲摩）

《編集・発行》ギャラリー仲摩

横浜市緑区三保町二〇六〇番地

TEL:090-1053-6642

FAX:045-507-3080

<http://www.nakama.co.jp>

nakama@nakama.co.jp